

北陸地方建設事業推進協議会

平成25年度

「建設技術報告会」

実施報告書

平成25年12月

北陸地方建設事業推進協議会
「建設技術報告会」実行委員会

目次

1. 開催概要	
1) 目的	1
2) 開催日時	1
3) 開催場所	1
4) 構成と報告時間	3
5) 報告技術のテーマ	3
6) 主催構成機関及び実行委員会構成員	4
7) 聴講者数及び聴講者数の推移	5
2. 実施内容	
1) 開会式	6
2) 基調講演	6
3) 技術報告	6
4) 閉会式	7
5) 報告技術一覧	7
6) パネル等展示コーナー	9
7) CPD/CPDS認証プログラム	11
3. 準備及び運営・設営	
1) スケジュール	12
2) 主な経緯	12
3) 運営体制	13
4) 会場設営	14
4. 広報	
1) 広報活動	18
2) 広報等掲載一覧	18
5. アンケート	
1) 設問内容	22
2) 配布・回収	22
3) アンケート結果概要	23
4) 設問別集計結果	25

1. 開催概要

1) 目的

「建設技術報告会」は、北陸地方における建設事業の円滑な推進を図るため、官公庁及び民間の建設会社において、新たに研究開発された新技術、新工法等を報告することにより、研究開発技術の普及を図る事を目的に開催されました。

本報告会は、平成7年度から開催され、今回で18回目の開催となりました。

2) 開催日時

■平成25年10月2日(水) 9時30分～16時30分

●受付
9時00分～ 2階ロビー〔ホワイエ〕

●開会式
9時30分～ 9時40分 第1会場〔スノーホールB〕
開会挨拶 北陸地方整備局 技術調整管理官 今野 和則

●基調講演
9時40分～10時40分 第1会場〔スノーホールB〕
演題 雪につよいまちづくり ～発想の転換～
講演者 (有)MAX・ZEN Performance consultant
代表取締役 丸山 結香 氏

●技術報告(分科会方式)
10時50分～16時10分
第1会場 スノーホールB
第2会場 中会議室201

●閉会式
16時20分～16時30分 第1会場〔スノーホールB〕
総評、閉会挨拶 平成25年度「建設技術報告会」実行委員長 大石 登
(北陸地方整備局 北陸技術事務所長)

閉会式終了後の16時40分からホール棟 ホールで「CPD/CPDS」の受講証明書の発行を行いました。

3) 開催場所

■会場施設
朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター)
住所: 〒950-0078 新潟市中央区万代島6番1号
TEL: 025-246-8400
URL: <http://www.tokimesse.com/>

■使用会場

- スノーホールB 施設 2階 第1会場：開会式・基調講演・技術報告・閉会式
聴講席：432席（シアター）
- 中会議室201 施設 2階 第2会場：技術報告
聴講席：208席（シアター）
- スノーホールA 施設 2階 パネル等展示コーナー
- 小会議室 施設 2階 講師・来賓・事務局・運営スタッフ控室
203・204

■交通アクセス

◆新潟駅から

- ・万代口から路線バスで約15分
新潟駅万代口バスターミナル5番乗り場より新潟交通17系統「朱鷺メッセ經由佐渡汽船行き」に乗車、「朱鷺メッセ」バス停下車
- ・タクシーで約5分
- ・徒歩 約20分

◆自動車利用

- 日本海東北自動車道 新潟亀田ICより約20分
- 関越・北陸自動車道 新潟西ICより約30分
- 磐越自動車道 新潟中央ICより約30分

◆新潟空港から：新潟空港よりタクシーで約20分



■万代島駐車場（A～E） 約1,850台収容

- ・営業時間：24時間
- ・料金：最初の1時間無料 以降100円/30分
- ・1日（入場から24時間）あたり最大1,500円

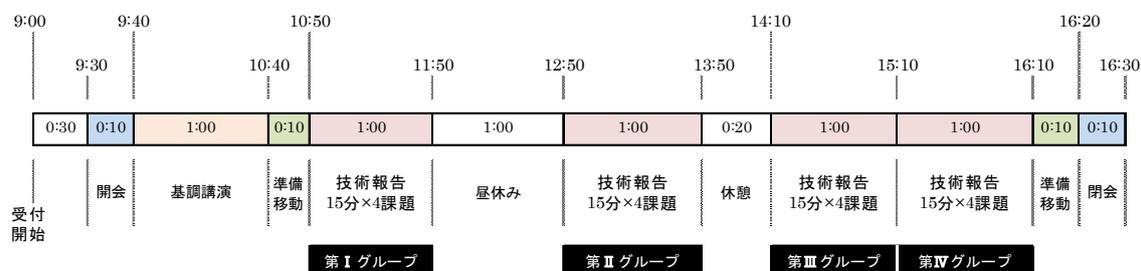
4) 構成と報告時間

基調講演と技術報告の2部構成とし、技術報告は2会場の分科会方式とした。

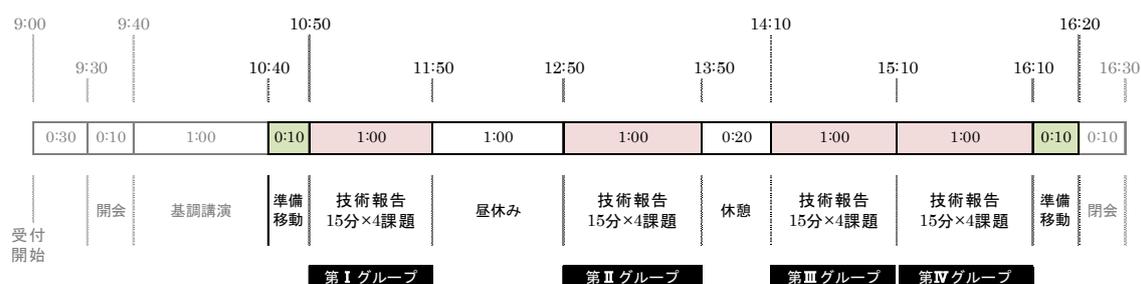
報告時間は「発表者入替」「プレゼンター立ち上げ」「質疑応答」を含めて1技術15分とし、1技術の報告終了毎に概ね3分間の質疑・応答時間を設けた。

技術報告：32技術（1技術×15分 質疑・応答含む）、基調講演：60分、昼休み：60分、休憩：20分

■第1会場：スノーホール（2F）



■第2会場：中会議室 201（2F）



5) 報告技術のテーマ

「社会資本の的確な維持管理・更新」の新たなテーマを含め、7テーマの分類により、合計32技術の技術報告を行った。テーマ別報告技術数は以下のとおりである。

- ①雪に強い地域づくり 4技術
(克雪対策、冬期道路交通の安全確保・安全性に関する新技術 等)
 - ②良いものを安く 7技術
(生産性向上、コスト縮減、省力化に関する新技術 等)
 - ③自然災害からの安全確保 6技術
(危機管理、土石流などの防災に関する新技術 等)
 - ④環境の保全と創造 4技術
(建設副産物、リサイクル、省エネルギーに関する新技術 等)
 - ⑤ゆとりと福祉 2技術
(情報化、バリアフリーに関する新技術 等)
 - ⑥社会資本の的確な維持管理・更新 7技術
(維持管理・長寿命化・更新に関する技術 等)
 - ⑦その他 2技術
(上記①～⑥に属さない新技術 等)
- 合計 32技術

6) 主催構成機関及び実行委員会構成員

■主催構成機関

主催は、『北陸地方建設事業推進協議会 平成25年度「建設技術報告会」実行委員会』である。
以下に実行委員会の構成機関（23機関）を示す。

北陸地方整備局／新潟県／富山県／石川県／新潟市／東日本高速道路(株)新潟支社／
中日本高速道路(株)金沢支社／(一社)日本建設業連合会北陸支部／
(一社)日本道路建設業協会北陸支部／(一社)建設コンサルタンツ協会北陸支部／
(一社)日本建設機械施工協会北陸支部／(社)新潟県建設業協会／(一社)富山県建設業協会／
(一社)石川県建設業協会／北陸土木コンクリート製品技術協会／
(一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会北陸支部／北陸PC防雪技術協会／
(一社)新潟県融雪技術協会／(財)新潟県建設技術センター／北陸地質調査業協会／
(一社)日本埋立浚渫協会北陸支部／(一社)北陸地域づくり協会／(一社)日本橋梁建設協会北陸事務所

■実行委員会構成員

役員	所属	役職	備考
委員長	北陸地方整備局 北陸技術事務所	事務所長	
副委員長	北陸地方整備局 新潟港湾空港技術調査事務所	事務所長	
委員	北陸地方整備局 企画部 施工企画課	課長	
委員	北陸地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課	課長	
委員	新潟県 土木部 技術管理課	土木工事検査監	会計監査員
委員	富山県 土木部 建設技術企画課	副主幹 技術指導係長	
委員	石川県 土木部 監理課 技術管理室	課参事	
委員	新潟市 都市政策部技術管理センター 工事検査課	課長	
委員	東日本高速道路(株)新潟支社 総合企画部 技術企画課	課長代理	
委員	中日本高速道路(株)金沢支社 総務企画部 企画調整チーム	サブリーダー	
委員	(一社)日本建設業連合会 北陸支部	契約積算・技術副委員長	
委員	(一社)日本道路建設業協会 北陸支部	幹事長	
委員	(一社)日本建設機械施工協会 北陸支部	普及部会担当委員	
委員	(一社)建設コンサルタンツ協会 北陸支部	広報委員長	
委員	(社)新潟県建設業協会	事務局長	
委員	(一社)富山県建設業協会	常務理事	
委員	(一社)石川県建設業協会	相談役	
委員	北陸土木コンクリート製品技術協会	事務局長	
委員	(一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会 北陸支部	広報部会長	
委員	北陸PC防雪技術協会	事務局長	
委員	(一社)新潟県融雪技術協会	技術委員長	
委員	(財)新潟県建設技術センター	情報管理部長	
委員	北陸地質調査業協会	事務局長	
委員	(一社)日本埋立浚渫協会 北陸支部	技術委員長	
委員	(一社)北陸地域づくり協会 技術部長	部長	
委員	(一社)日本橋梁建設協会 北陸事務所	所長	

7) 聴講者数及び聴講者数の推移

■聴講者数

本年度の聴講申込人数及び聴講実績人数は下表のとおりである。

【平成25年度「建設技術報告会」 聴講者集計表】

機関・団体名		申込	実績
官公庁	国交省(関東地整含む)、新潟県、富山県、長野県、新潟市、市町村他	140	149
民間		504	384
発表者(官公庁)		4	4
発表者(民間)		28	28
報道		0	6
合計		676	571

■「建設技術報告会」聴講者数の推移

【「建設技術報告会」聴講者数(第1回～第18回)】

開催年	1995年	1996年	1997年	1998年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
内訳																		
国土交通省等	39	68	112	94	100	89	72	72	80	105	45	47	33	47	43	67	65	60
自治体	39	202	116	129	69	86	87	50	31	34	18	29	24	23	49	24	100	93
民間(協会等)	189	373	430	206	364	401	471	354	360	319	278	302	404	343	459	411	336	418
学校	0	0	0	0	0	3	0	35	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	267	643	658	429	533	579	630	511	478	458	341	378	461	413	551	502	501	571
開催地	新潟市	富山市	新潟市	金沢市	新潟市	富山市	新潟市	金沢市	新潟市				富山市	新潟市	金沢市	新潟市		



第1会場



第2会場

2. 実施内容

1) 開会式

時 間：9時30分～9時40分
会 場：第1会場〔スノーホールB〕
開会挨拶：北陸地方整備局 企画部 技術調整管理官 今野 和則
司 会：北陸技術事務所 副所長 樋口 昌幸



2) 基調講演

時 間：9時40分～10時40分
会 場：第1会場〔スノーホールB〕
演 題：雪につよいまちづくり～発想の転換～
講演者：(有) MAX・ZEN Performance consultant
代表取締役 丸山 結香 氏
司 会：北陸技術事務所 副所長 樋口 昌幸



3) 技術報告

時 間：10時50分～16時10分
会 場：第1会場〔スノーホールB〕 16技術
第2会場〔中会議室201〕 16技術
司 会：第1会場 (一社)日本建設業連合会 北陸支部 (鹿島建設株) 永嶋 聡志
北陸地方整備局 企画部 施工企画課 課長補佐 堀内 崇志
第2会場 (一社)日本道路建設業協会 北陸支部 (前田道路株) 荒木 隆雄
北陸地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課 課長補佐 寺崎 賢次



第1会場 報告状況

第2会場 報告状況

4) 閉会式

時 間：16時20分～16時30分
 会 場：第1会場〔ホール棟 ホール〕
 閉会挨拶：「建設技術報告会」実行委員長 大石 登
 （北陸地方整備局 北陸技術事務所長）
 司 会：北陸技術事務所 副所長 樋口 昌幸



5) 報告技術一覧

報告技術の募集を5月17日から開始し、32技術の応募があった。
 技術報告は以下の32技術である。

【報告技術一覧表（主催機関・団体別）】

（その1）

主催機関・団体名	テーマ番号	報告技術名	機関・会社名・所属
国土交通省	②	橋梁詳細設計における CIM の試行	北陸地方整備局 富山河川国道事務所 工務第二課
	②	斜め入射波による護岸越波実験について	北陸地方整備局 新潟港湾空港技術調査事務所 設計室
新潟県	⑦	「Made in 新潟 新技術普及・活用制度」について	新潟県 土木部 技術管理課 技術管理班
新潟市	④	新潟市中部下水処理場における消化ガス発電の取組み	新潟市 下水道部 下水道管理センター 施設管理課
(一社) 日本建設業連合会 北陸支部	②	斜め土留め工法	㈱大林組 生産技術本部 技術第一部
	⑥	排水・湿潤連続養生によるコンクリートの耐久性向上技術の開発	大成建設㈱ 土木技術研究所 土木構工法 研究室
	②	ロングブーム吹付機の開発と現場適用	清水建設㈱ 土木技術本部 機械技術部
	②	ダムコンクリート夏期打設における温度抑制対策の実施事例	鹿島建設㈱ 北陸支店
	⑦	シェル型浸透固化処理工法	五洋建設㈱ 技術研究所
	③	岸壁の耐震補強における大口径・長尺アンカーの施工	日特建設㈱ 技術本部 技術第二部
	③	液状化対策工法エキスパンダーN工法と管理システム「スリーPオクト」の開発	日特建設㈱ 技術本部 設計部
(一社) 日本道路建設業協会 北陸支部	①	粗面型ゴム粒子入り凍結抑制舗装	大林道路㈱ 技術研究所 材料研究室
	⑥	ST リペアコート	世紀東急工業㈱ 技術部
	⑥	一般車両を用いた路面性状評価システムの開発	鹿島道路㈱ 生産技術本部 技術研究所
	①	延長床版システムプレキャスト工法	㈱ガイアート T・K 技術開発部

主催機関・団体名	テーマ番号	報告技術名	機関・会社名・所属
(一社)日本道路建設業協会 北陸支部	①	寒冷地での FFP 追跡調査結果について	(株)ガイアート T・K 技術研究所
	⑥	耐久性に優れたエポキシアスファルト混合物の開発	日本道路(株) 技術部
	④	環境にやさしいアスファルト舗装	福田道路(株) 技術研究所
	⑤	遊具周りの高弾性ゴム舗装「ウレタンパーソフトセーフティ」	(株)NIPPO 北信越支店 技術課
(社)新潟県建設業協会	②	法面削孔装置の移動式可変勾配足場の活用事例	(株)郷土建設藤村組 特殊工事業業部
	④	泥土リサイクル技術「ボンテラン工法」	(株)廣瀬
	⑥	ポータブル ワイヤレス ライブカメラシステム (OPECA)の工事検査における活用事例及びその活用効果について	大陽開発(株)
北陸土木コンクリート製品 技術協会	④	老朽化した綱矢板水路の補修・補強工法の開発	藤村ヒューム管(株) 技術営業部
(一社)新潟県融雪技術協会	①	下水熱を利用したランニングコストゼロの融雪システム	(株)興和 水工部
	①	雪堤を対象とした散水消雪試験について	(株)興和 水工部
(一社)日本埋立浚渫協会 北陸支部	③	空気注入不飽和化工法 (Air-des 工法)	東亜建設工業(株) 技術研究開発センター
	③	津波に対する防波堤港内側マウンドの保護工法	(株)不動テトラ ブロック環境事業本部 総合技術研究所
	④	港湾工事におけるコンクリートがらのリサイクル	(株)本間組 土木事業本部 技術部
(一社)北陸地域づくり協会	②	北陸地域におけるジオテキスタイル二重壁補強土壁工法の適用と改訂版の発行	アダムウォール協会
	⑤	スキッドレスシリーズ (滑り防止工法)	愛宕商事(株) 建築事業課
(一社)日本橋梁建設協会	⑥	FRP を活用した橋梁の長寿命化	宮地エンジニアリング(株) 橋梁事業本部 技術本部

注) テーマ番号 ① 雪に強い地域づくり ② 良いものを安く ③ 自然災害からの安全確保
 ④ 環境の保全と創造 ⑤ ゆとりと福祉 ⑥ 社会資本の的確な維持管理・更新
 ⑦ その他

6) パネル等展示コーナー

主催機関の傘下会社で開発された新技術・新工法などを対象に技術パネル等の展示コーナーを併設した。本コーナーは昨年度まで「新技術パネル展示コーナー」と「NETIS登録技術等パンフレット配布コーナー」として運営してきたが、「パネルやパンフレットが置いてあるだけでわかりづらい」などの意見があったことから、今年度から、各出展者の協力依頼し「説明員の配置」や「模型や映像による説明が行えるよう改善した。」

なお、技術パネル等の展示は展示希望を募り、展示希望のあった29企業から展示が行われた。

時間：9時00分～16時00分

※昼休憩（11:50～12:50）、PM休憩（13:50～14:10）に原則、説明員を配置依頼

会場：ホール棟 1階 ホワイエ

【パネル等展示一覧表】

(その1)

No.	技術名	機関・会社名・所属	備考
国土交通省 北陸地方整備局			
1	除雪の変遷	北陸技術事務所	
石川県			
2	「Made in 新潟 新技術普及・活用制度」の概要	土木部 技術管理課	
新潟市			
3	下水道再生エネルギー/消化ガス発電/下水熱利用	下水道部下水道管理センター	
(一社) 日本建設業連合会 北陸支部			
4	山岳トンネルの新技術/ダムのリニューアル技術	鹿島建設(株)	
5	排水・湿潤連続養生によるコンクリートの耐久性向上技術	大成建設(株)	
6	斜め土留め工法(株)	(株)大林組	
7	ニューレスプ工法	日特建設(株)	
8	シェル型浸透固化処理工法	五洋建設(株)	
(一社) 日本道路建設業協会 北陸支部			
9	アイストッパー	大林道路(株)	
10	多機能路面測定システム	鹿島道路(株)	
11	延長床版システムプレキャスト工法/多機能型排水性舗装	(株)ガイアート T・K	
12	グレーチングストッパー/グレーチングストッパー-SP	丸運建設(株)	
13	遊具周りの高弾性ゴム舗装「ウレタンパーソフト セーフティ」	(株)NIPPO	
14	DANMEN わかーる/CS コート	鹿島道路(株) 北陸支店 工事部技術課	
(一社) 日本建設機械施工協会 北陸支部			
15	情報化施工技術推進の取り組み	(一社) 日本建設機械施工協会 北陸支部	
(社) 新潟県建設業協会			
16	ポータブルワイヤレスライブカメラシステム	大陽開発(株)	
17	泥土リサイクル技術「ボンテラン工法」	(株)廣瀬	

(その2)

No.	技 術 名	機関・会社名・所属	パンフ
(一社)建設コンサルタンツ協会 北陸支部			
18	冬期路面情報の道路利用者への試験配信 ほか	(株)アルゴス	
19	「型枠リユースシステム」	(株)長大	
北陸土木コンクリート製品技術協会			
20	老朽化した綱矢板水路の補修・補強工法	藤村ヒューム管(株)	
(一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会 北陸支部			
21	PC 橋の更なる普及に向けて	(一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会 北陸支部	
北陸 PC 防雪技術協会			
22	ゼロハチフェンス(インルギ®緩衝リッパ付落石防護フェンス)	日本サミコン(株)道	
(一社)新潟県融雪技術協会			
23	自然エネルギー利用融雪システム(株)	(株)興和	
(社)日本埋立浚渫協会 北陸支部			
24	KS-S・MIX(大口径相対攪拌深層混合処理)工法/ KS-EGG 工法(無振動低騒音式地盤改良工事工法)	あおみ建設(株)	
25	バルーングラウト工法	東亜建設工業(株)	
26	廃棄物減容化技術 TLT 工法/ 日本海側最大級の押航式全旋回起重機船	(株)本間組	
(一社)北陸地域づくり協会			
27	スキッドレスシリーズ(滑り防止工法) 他1技術(品質証明シール)	(一社)北陸地域づくり協会	
28	二重壁構造を持つジオテキスタイル補強土壁「アダムウォール」	アダムウォール協会	
(一社)日本橋梁建設協会 北陸事務所			
29	FRP 検査路	宮地エンジニアリング(株)	
出展企業等数 合計			29



パネル等展示コーナー

7) CPD/CPDS認証プログラム

社会資本整備に携わる建設技術者の技術力向上の場として、本報告会を積極的に活用していただくことを目的に、平成20年度より建設系CPD協議会による「CPD（継続教育）」プログラム及び社団法人全国土木施工管理技士会連合会による「CPDS（継続学習制度）」の認定講習となっており、その対象者への受講証明の交付を行った。交付数は聴講者全体の44%（251/571）、民間聴講者の73%（251/384）であった。

※今年度から、CPDSの運用変更により本報告会のように複数会場で発表等を実施する形態の場合、対象時間×0.5とする運用となった。

■受講受付

時間：9時00分～10時00分
 場所：2階 ホワイエ
 聴講受付—受講証明書引換券配付

■受講証明発行

時間：16時30分～17時00分
 場所：2階 ホワイエ
 CPD/CPDS 受付—引換券により受講証明書発行

平成25年度 受講証明書交付数：251人（CPD—89人 CPDS—162人）



CPD 受講証明書 引換券



CPDS 受講証明書 引換券

建設系CPD協議会加盟団体主催CPD申請書・受講証明書

建設系CPD協議会加盟団体の主催する講習会受講記録を、地職工学会、全国土木施工管理技士会連合会、農業農村工学会のいずれかにCPD申請する場合は、以下の内容を記入して、プログラム開催主催者の受講証明印をもらった上で団体事務局あてに送付（FAX）してCPD申請を行ってください。

項目名	申請内容
申請日	年 月 日
申請者名	
会社名等	
会社住所等	
TEL	
FAX	
所属団体（学会）名	
会員番号	
開催日	平成25年10月2日
CPDプログラム名称	平成25年度「建設技術報告会」 CPDプログラム番号：201308130004
主催者	平成25年度「建設技術報告会」実行委員会
開始～終了時間	9時30分～16時30分
CPD単位	6単位
開催地	新潟県新潟市中央区万代島6番1号 朱鷺メッセ（新潟コンベンションセンター）

【CPDプログラム主催者の方へお願い】
 プログラム名、開催日、受講者氏名をご確認の上、証明印をご記入して証明印をお願いいたします。

証明印団体名 北陸地方整備局 北陸技術事務所
 平成25年度「建設技術報告会」実行委員会

※CPD記録申請にあたって本受講証明が必要となる団体
 地職工学会、全国土木施工管理技士会連合会、農業農村工学会

CPD 受講証明書

No.

受講証明書

受講者名 又は 通し番号			
プログラム名称	平成25年度「建設技術報告会」※形態コード105		
プログラム番号	228666	ユニット数	3 unit
講習日・時間	2013年10月2日 9:30～16:30		
講習会場	【新潟県】朱鷺メッセ（新潟コンベンションセンター）		

上記の者について、講習会を受講したことを証明します。

2013年10月2日

主催：北陸地方整備局 北陸技術事務所
 平成25年度「建設技術報告会」実行委員会

CPDS 受講証明書

3. 準備及び運営・設営

1) スケジュール

平成25年度「建設技術報告会」は、下記のとおり実施した。

北陸地方建設事業推進協議会 平成24年度「建設技術報告会」運営スケジュール												
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
実行委員会等												
北陸地方建設事業推進協議会 運営委員会	● 2/28											
実行委員会事前準備												
会計監査												
実行委員会				● 5/15							● 12/9	
協議・決定事項等				・規約(案)の協議・承認 ・実施計画(案)の協議・承認 ・予算(案)の協議・承認							・実施状況報告 ・収支報告	
報告技術募集及び原稿作成等												
案内原稿作成(チラシ)				報告技術募集		聴講募集用						
ホームページ開設・運営				作成	報文等募集		作成	聴講募集		作成	開催結果	
				5/17	6/21		8/7	9/13		11/11		
報告技術募集・取りまとめ (主催機関)				5/17	6/21							
報告技術検討・選定					6/21	7/19						
採否通知 (事務局)						● 7/19						
報告論文原稿作成・提出 (報告技術発表者)						7/19	8/9					
プレゼンデータ作成・提出 (報告技術発表者)						7/20	8/30					
パネル展示募集・取りまとめ (主催機関)				5/17	6/21							
聴講募集(主催機関等)							8/7	9/13				
報告論文集(CD版)作成									作成			
その他												
記念講演者依頼・報道投込み				基調講演者選定 及び依頼					● 9/25			
CPD/CPDS登録申請							CPD CPDS					
報告会開催									● 10/2			

2) 主な経緯

会議名等	実施日時	会場	内容
平成25年度 北陸地方建設事業推進協議会運営委員会	平成25年2月28日(木)	北陸地方整備局 4階 会議室	「建設技術報告会」の開催承認
平成25年度「建設技術報告会」 第1回実行委員会	平成25年5月15日(水) 14時00分～15時30分	北陸技術事務所 会議室	規約(案)の協議・承認 実施計画(案)の協議・承認 予算(案)の協議・承認
平成25年度「建設技術報告会」開催	平成25年10月2日(水) 9時00分～16時30分	朱鷺メッセ 2FスノーホールA, B 中会議室201	報告会開催
平成25年度「建設技術報告会」 第2回実行委員会	平成25年12月9日(月) 13時00分～15時00分	北陸地方整備局 4階 会議室	実施結果報告 収支報告 次回開催について

3) 運営体制

報告会当日は、主催構成機関・団体からの運営スタッフ及び会場施設スタッフの33名（官：13名、民：19名、開催会場1名）の協力により実施した。

【運営体制表】

担当・対応時間・会場等			運営人員	北陸地方整備局 13人	新潟県 4人	新潟市 3人	新潟建協 2人	日建連 3人	道建協 3人	機機協 1人	埋浚協 2人
受付係	聴講受付	9:00-16:30	受付開始～閉会終了(終日)	4	須山 武志		長沼 久典子	小倉 悦子	本郷 星典		
		9:00-10:40	受付開始～講演終了	8		上野 陽子 小山 祐介	加藤 克巳 伊藤 智雄	加藤 大介	佐藤 聡子	滝沢 重紀	坪内 昭雄
	CPD/CPDS 受付	9:00-17:00	受付開始～最終(終日)	2	田邊 文昭 長谷川 学						
		16:30-17:00	閉会終了～最終	4	(松井 渉) (波多野 雅也) (齋藤 健二) (水道 龍次)						
技術報告	司会係	10:50-13:50 (I・II)	第1会場	1					永嶋 聡志		
		14:10-16:10 (III・IV)	第1会場	1	(堀内 崇志)						
		10:50-13:50 (I・II)	第2会場	1						荒木 隆雄	
		14:10-16:10 (III・IV)	第2会場	1	(寺崎 賢次)						
	時間管理係	10:50-13:50 (I・II)	第1会場	1				(加藤 克巳)			
		14:10-16:10 (III・IV)	第1会場	1		(上野 陽子)					
		10:50-13:50 (I・II)	第2会場	1			(伊藤 智雄)				
		14:10-16:10 (III・IV)	第2会場	1		(小山 祐介)					
	マイク受渡係	10:50-16:10	第1会場	2				(加藤 大介)			(坪内 昭雄)
		10:50-16:10	第2会場	2					(佐藤 聡子)	(滝沢 重紀)	
	会場照明係 (パソコン係)	9:30-16:30	第1会場	1							平池 智広
		10:50-16:10	第2会場	1							阿部 宏之
写真係	9:00-10:40	全体 (開会・講演)	2		大島 康弘	関口 浩明					
	10:50-16:10	第1会場	1		(大島 康弘)						
	10:50-16:10	第2会場	1			(関口 浩明)					
事務局	総合司会	9:30-9:40	開会式	1							
		9:40-10:40	基調講演	1							
	来賓対応	16:20-16:30	閉会式	1							
		9:00-11:00	第1会場 講師来賓控室	1		(柴澤 一嘉)					
	マスコミ対応	11:00-16:30				(柴澤 一嘉)					
		10:50-16:10	受付常駐	4		(堀内 崇志) 寺崎 賢次					
		9:00-14:00 16:10-16:30									
	連絡調整係	8:00-17:00	会場全体	1		小泉 倫彦					
8:00-17:00		会場全体	1		加藤 学						
全体写真係 (実施状況・開閉会・基調講演)	8:00-17:00	会場全体	1		長谷川 崇						
運営調整係	9:40 10:40-10:50 16:10-16:20	第1会場 (配座替え)	4		松井 渉 波多野 雅也 齋藤 健二 水道 龍次						
	9:00-18:30	(鉄丸等展示運営)	2		(小泉 倫彦) (加藤 学)						

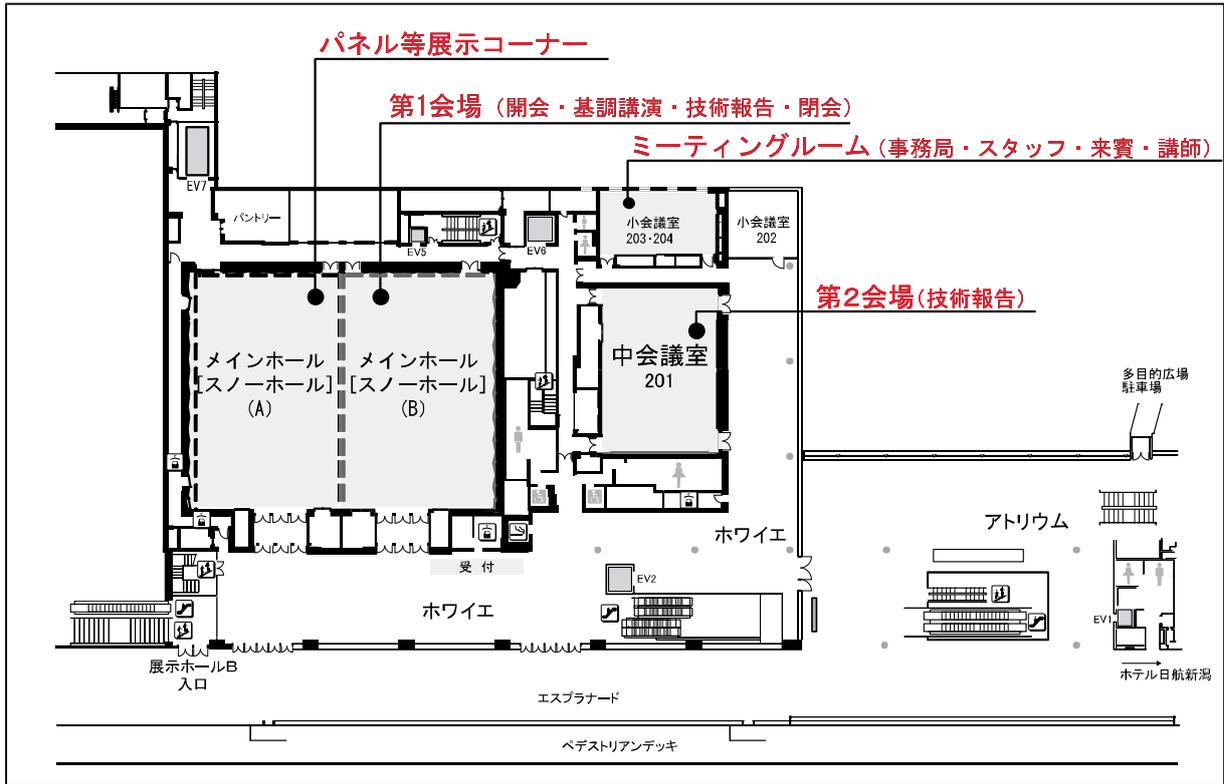
機関・団体別 スタッフ人数

北陸地方整備局					主催団体								合計
企画部 施企課	港空部 海技課	新潟 技調	北陸 技術	小計	新潟 県	新潟 市	新潟 建協	日建 連	道建 協	建機 協	埋浚 協	小計	
4	2	2	5	13	4	3	2	3	3	1	2	18	31

4) 会場設営

■フロアマップ

使用会場の位置を示す。



催事案内



第1会場



第2会場



聴講・CPD/CPDS 受付



聴講受付状況



CPD/CPDS 受講証明配布状況



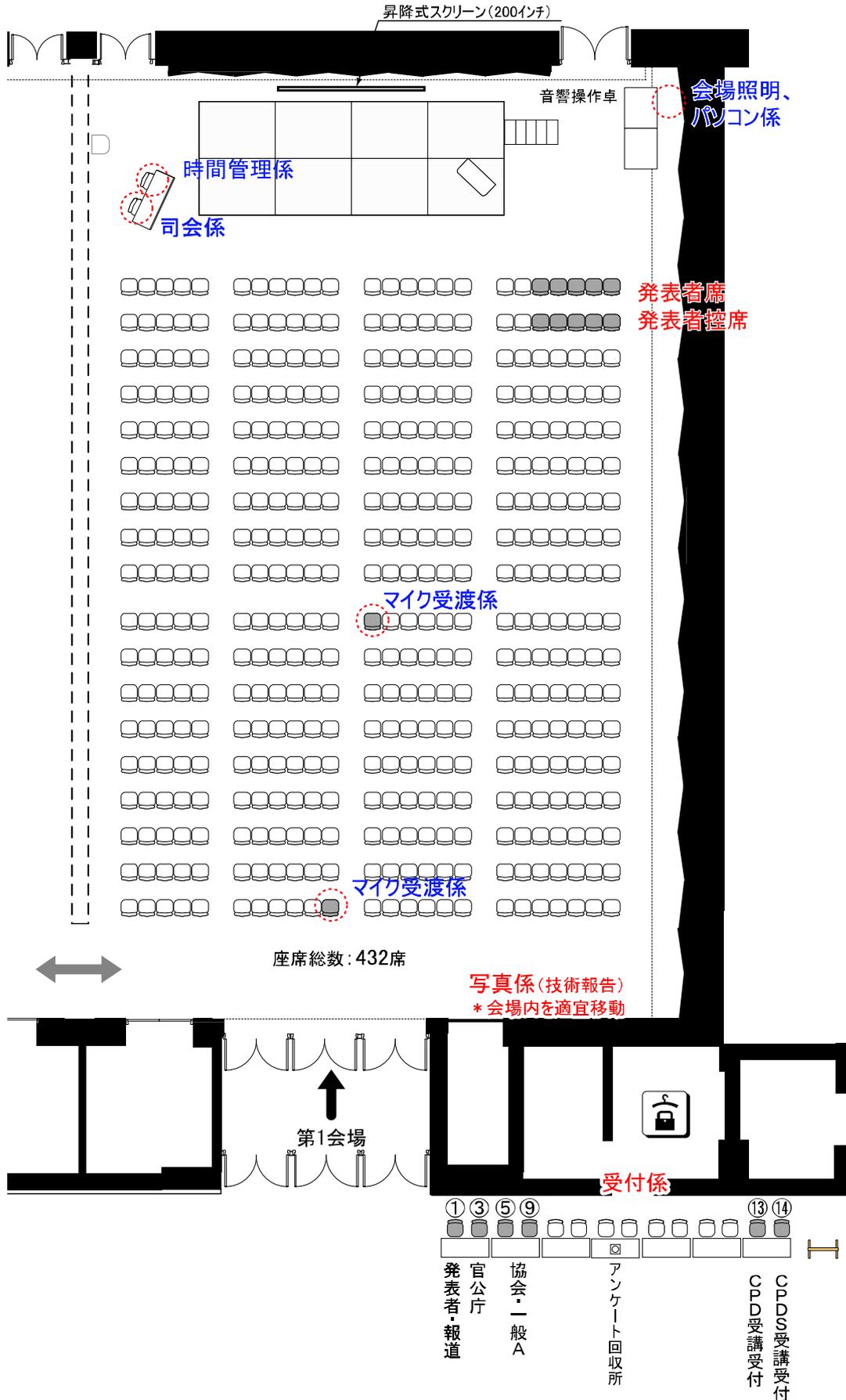
来賓／事務局控室



アンケート回収状況

■会場詳細レイアウト図ー技術報告時ー

■第一会場：スノーホールB

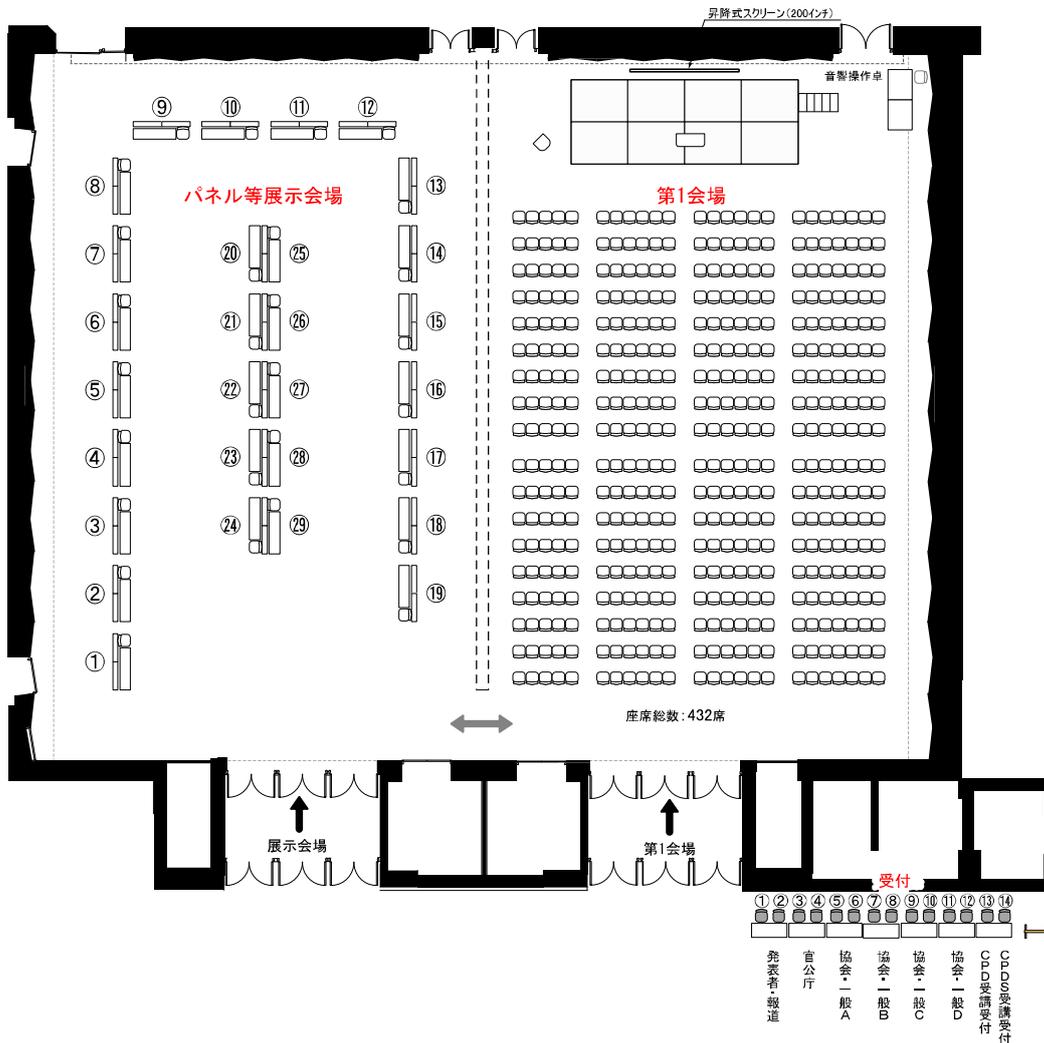


■第2会場：中会議室201



■会場詳細レイアウト図ーパネル等展示コーナーー

ブース番号	出展技術	出展者	区分
①	除雪の変遷	北陸地方整備局	共通
②	「Made in 新潟 新技術普及・活用制度」の概要	新潟県	共通
③	下水道再生エネルギー/消化ガス発電/下水熱利用	新潟市	共通
④	KS-S・MIX（大口径相対攪拌深層混合処理）工法/KS-E66工法（無振動低騒音式地盤改良工事工法）	あおみ建設㈱	共通
⑤	斜め土留め工法	榑大林組	共通
⑥	シェル型浸透固化処理工法	五洋建設㈱	共通
⑦	排水・湿潤連続養生によるコンクリートの耐久性向上技術	大成建設㈱	共通
⑧	ポータブルワイヤレスライブカメラシステム	太陽開発㈱	共通
⑨	「型枠リユースシステム」	榑長大	共通
⑩	ニューレスブ工法	日特建設㈱	共通
⑪	遊具周りの高弾性ゴム舗装「ウレタンパソフト セーフティ」	榑NIPPO	共通
⑫	情報化施工技術推進の取り組み	(一社) 日本建設機械施工協会	共通
⑬	スキッドレスシリーズ（滑り防止工法） 他1技術（品質証明シール）	(一社) 北陸地域づくり協会	共通
⑭	泥土リサイクル技術「ボンテラン工法」	榑廣瀬	河川
⑮	老朽化した綱矢板水路の補修・補強工法	藤村ヒューム管㈱	河川
⑯	バルングラウト工法	東亜建設工業㈱	港湾
⑰	廃棄物減容化技術TLT工法/日本海側最大級の押航式全旋回起重機船	榑本間組	港湾
⑱	冬期路面情報の道路利用者への試験配信 ほか	榑アルゴス	道路
⑲	アイストッパー	大林道路㈱	道路
⑳	延長床版システムプレキャスト工法/多機能型排水性舗装	榑ガイアートT・K	道路
㉑	山岳トンネルの新技術/ダムのリニューアル技術	鹿島建設㈱	道路・河川
㉒	多機能路面測定システム	鹿島道路㈱	道路
㉓	自然エネルギー利用融雪システム	榑興和	道路
㉔	二重壁構造を持つジオテキスタイル補強土壁「アダムウォール」	ジオレキスタイル二重壁補強土壁工法検討委員会（アダムウォール協会）	道路
㉕	DANMENわかーる/CSコート	東亜道路工業㈱	道路
㉖	ゼロハチフェンス（E&K'緩衝リング'付落石防護フェンス）	日本サミコン㈱	道路
㉗	PC橋の更なる普及に向けて	(一社) プレストレスト・コンクリート建設業協会 北陸支部	道路
㉘	グレーチングストッパー/グレーチングストッパーSP	丸運建設㈱	道路
㉙	FRP検査路	富地エンジニアリング㈱	道路



4. 広報

1) 広報活動

	種別・内容	方法	時期	摘要
チラシ配布	報告技術募集用 (北技HP掲載)	配布・募集	5月17日～	実行委員会 主催機関・団体
	聴講募集用 (紙・電子データ)		8月7日～	
定期刊行誌	北陸の建設技術	掲載	8月号(聴講募集) 9月号(開催のお知らせ) 11月号(開催結果)	
	各主催機関・団体	掲載依頼	適宜	
記者クラブ	新潟県政記者クラブ 新潟県政記者クラブ 富山県政記者クラブ 石川県政記者クラブ 山形県政記者クラブ 長野県政記者クラブ 福島県政記者クラブ 岐阜県政記者クラブ 福井県政記者クラブ	記者発表	9月25日	開催概要 プログラム
ホームページ	北陸技術事務所	開設・運用	5月17日～(報告技術募集)	
	各主催機関・団体		8月7日～(聴講募集) 適宜	

2) 広報等掲載一覧

■新聞報道

掲載紙	発行機関	掲載月日
新潟日報	新潟日报社	平成25年 9月26日(木)
新潟建設新聞	日本工業経済新聞社	平成25年 9月26日(木)
日刊建設工業新聞	日刊建設工業新聞社	平成25年 9月27日(金)
		平成25年10月3日(木)

■定期刊行誌

掲載紙	発行機関	掲載号
北陸の建設技術	北陸地方建設事業推進協議会	8月号(聴講募集) 9月号(開催のお知らせ) 11月号(開催結果)

※来年度、各団体が発行する提起刊行誌への掲載のご検討をお願いします。

■ホームページ

掲載機関	掲載コンテンツ
(一社)日本建設機械施工協会北陸支部	「What's news」、「トップ(バナー掲載)」
(社)新潟県建設業協会	「新着情報」
(一社)富山県建設業協会	「新着情報」
北陸土木コンクリート製品技術協会	「トップ(バナー掲載)」
(一社)新潟県融雪技術協会	「トップ(バナー掲載)」
(一社)北陸地域づくり協会	「トップ(バナー掲載)」
国土交通省北陸地方整備局	「トップ(イベント情報)」
国土交通省新潟港湾空港技術調査事務所	「トップ(バナー掲載)」
国土交通省北陸技術事務所	「トップ(バナー掲載)」

※引き続きHPでの広報にご協力をお願いします。また、今回、掲載のなかった団体等も来年度はご検討をお願いします。

2013年(平成25年)9月26日(木曜日) (日刊) 新潟日報

新潟建設新聞 13.9.26

建設分野の新たな開拓... 新潟日報の記事内容

建設分野の新たな開拓... 新潟建設新聞の記事内容

日刊建設工業 (平成25年9月27日)

日刊建設工業新聞 13.9.27

新工法など32件解説... 10月2日に技術報告会... 北陸地方整備局と北陸地整ら... 建設技術報告会... 来月2日に開催... 北陸地整ら... 全確保の環境の保全と創造のゆとりと福祉の社会資本の的確な維持管理・更新のその他の7つのテーマに沿って32技術が報告される。

民・官で研究開発された新技術・新工法を披露する本年度の「建設技術報告会」が10月2日に朱鷺メッセ(新潟市中央区万代島)で開催される。開会式は9時30分から。北陸地方整備局、新潟県、建設業団体らで構成する北陸地方建設事業推進協議会が主催。...

建設技術報告会 来月2日に開催 北陸地整ら... 全確保の環境の保全と創造のゆとりと福祉の社会資本の的確な維持管理・更新のその他の7つのテーマに沿って32技術が報告される。また、ポスターセッション方式でパネル、パンフレット、模型などを紹介する展示コーナーでは29企業等が展示を予定。...

日刊建設工業新聞 (平成25年10月3日)

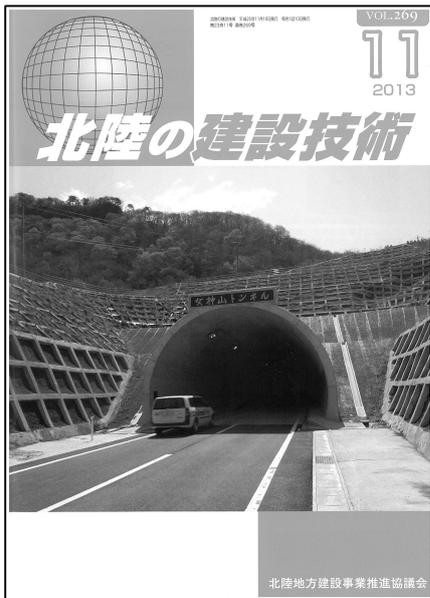
建設工業新聞 10月3日... 32の新工法など紹介... 北陸地方整備局と北陸地整ら... 建設技術報告会... 来月2日に開催... 北陸地整ら... 全確保の環境の保全と創造のゆとりと福祉の社会資本の的確な維持管理・更新のその他の7つのテーマに沿って32技術が報告される。

■提起刊行誌 掲載事例

◆北陸の建設技術（9月号）掲載事例（開催のお知らせ）



◆北陸の建設技術（11月号）掲載事例（開催報告）



◆ 技術報告会は会場に分かれ、「社会的・経済的・環境的・資源」の異なるテーマをテーマに関連して発表されました。

① 雪に強い地域づくり (4題) ② 水と向きと振興 (2題)
 ③ 高いも安全安心 (7題) ④ 社会資本の持続的発展と維持管理・更新 (7題)
 ⑤ 自然災害からの安全確保 (6題) ⑥ 水の地 (2題)
 ⑦ 環境の保全と創造 (4題)

● 技術報告一覧

発表者	テーマ	技術名	発表者(機関)名
建設技術	建設技術	① 建設現場におけるCMAAの活用	北陸地方建設事業推進協議会 建設二課
		② 雪に強い地域づくり	株式会社 北陸建設 建設部 一課
		③ 高いも安全安心	株式会社 北陸建設 建設部 一課
		④ 自然災害からの安全確保	株式会社 北陸建設 建設部 一課
		⑤ 環境の保全と創造	株式会社 北陸建設 建設部 一課
		⑥ 水と向きと振興	株式会社 北陸建設 建設部 一課
		⑦ 社会資本の持続的発展と維持管理・更新	株式会社 北陸建設 建設部 一課
		⑧ 水の地	株式会社 北陸建設 建設部 一課
		⑨ 雪に強い地域づくり	株式会社 北陸建設 建設部 一課
		⑩ 高いも安全安心	株式会社 北陸建設 建設部 一課
土木技術	土木技術	① 建設現場におけるCMAAの活用	北陸地方建設事業推進協議会 建設二課
		② 雪に強い地域づくり	株式会社 北陸建設 建設部 一課
		③ 高いも安全安心	株式会社 北陸建設 建設部 一課
		④ 自然災害からの安全確保	株式会社 北陸建設 建設部 一課
		⑤ 環境の保全と創造	株式会社 北陸建設 建設部 一課
		⑥ 水と向きと振興	株式会社 北陸建設 建設部 一課
		⑦ 社会資本の持続的発展と維持管理・更新	株式会社 北陸建設 建設部 一課
		⑧ 水の地	株式会社 北陸建設 建設部 一課
		⑨ 雪に強い地域づくり	株式会社 北陸建設 建設部 一課
		⑩ 高いも安全安心	株式会社 北陸建設 建設部 一課



◆HP掲載事例（バナー掲載）

北陸技術事務所

新潟港湾空港技術調査事務所

日本建設機械施工協会北陸支部

北陸土木コンクリート製品技術協会

新潟県融雪技術協会

北陸地域づくり協会

5. アンケート

次回以降の開催の参考とするため、聴講者を対象にアンケート調査を実施した。

1) 設問内容

**北陸地方建設事業推進協議会
「平成25年度 建設技術報告会」アンケート**

建設技術報告会にご参加いただき誠にありがとうございます。
今後の参考とさせていただきますため、アンケート調査にご協力下さい。

*回答は、記述式の設問以外は該当する記号を○で囲んでください。

問1. 職業・職種をお聞かせ下さい。
A. 国土交通省職員 B. 県職員 C. 市町村職員 D. 公益企業職員
E. A～Dに属さない官公庁(機関名)
F. 建設関連の会社(技術職) G. 建設関連の会社(事務職)
H. 建設関連の協会・団体 I. その他()

問2. 主な仕事分野をお聞かせ下さい。
A. 河川 B. 道路 C. 砂防 D. 港湾空港 E. 宮構
F. 上下水道 G. 共通() H. その他()

問3. どちらから来られましたか。
A. 新潟市内 B. 新潟市を除く新潟県内() C. 富山県
D. 石川県 E. その他()

問4. この報告会を何で知りましたか。
A. 協会・団体からの案内 B. ホームページ C. チラシ
D. 国土交通省・県・市からの案内 E. くちこみ F. その他()

問5. この報告会の参加回数をお聞かせ下さい。
A. 初めて B. 2～5回 C. 5～10回 D. 10回以上

問6. 建設事業への新技術導入の必要性についてお聞かせ下さい。
A. 必要性を感じる B. 多少感じるが急務の問題ではない C. 特に問題意識はない

問7. 上記の問6. で「A. 必要性を感じる」または「B. 多少感じるが急務の問題ではない」に○をされた方にお聞きします。どの分野に必要性を感じますか(複数回答可)。
A. 雪に強い地域づくり・・・「雪害対策技術」、「冬期道路交通の安全確保」等
B. 良いものを安く・・・「コスト削減技術」、「省力化技術」、「生産性向上技術」等
C. 自然災害からの安全確保・・・「土石流などからの防災技術」、「災害対策技術」等
D. 環境の保全と創造・・・「リサイクル技術」、「省エネルギー技術」、「環境整備技術」等
E. ゆとりと福祉・・・「生活者の安全健康技術」、「情報化技術」等
F. 社会資本的的確な維持管理・更新・・・「ワックス・モリリン」技術、「維持管理費削減や耐久性のある材料」等
G. その他()

問8. 新技術導入の障害となっているものがあるとなれば、それは何かお聞かせ下さい。
A. 経費的なもの B. 積算体系等制度的なもの C. 新技術に関する情報不足(工法選定 etc)
D. その他()

(裏面の記入もお願いします。)

(表面)

問9. 今回の報告会を聴講して、特に現場で採用してみたい技術や興味を持った技術、関心の高かった技術を3題まで選んでご記入下さい。
1. 報告技術名()
会社名()
2. 報告技術名()
会社名()
3. 報告技術名()
会社名()

問10. 報告会の開催時期についてお聞かせ下さい。
A. 今の時期が良い B. その他()月頃

問11. 報告技術1題あたりの報告時間についてお聞かせ下さい。
A. 長い B. 適当 C. 短い

問12. この報告会の開催についてお聞かせ下さい。
A. 今後も続けて欲しい B. 特に開催の必要性を感じない C. 内容を改善して続けて欲しい

問13. 上記の問12. で「B. 特に開催の必要性を感じない」「C. 内容を改善して続けて欲しい」に○をされた方にお聞きします。理由またはどのような内容を望まれていますか。

問14. 基調講演についてお聞かせ下さい。
A. 今後も続けて欲しい B. 特に必要ない C. 講演内容を改善して欲しい

問15. 発表形式や会場設置についてお聞かせ下さい。
A. とても良かった B. 良かった C. あまり良くなかった
「C. あまり良くなかった」を選択された方(理由:)

問16. 新技術を紹介するパネル等展示コーナーについてお聞かせ下さい。
A. とても良かった B. 良かった C. あまり良くなかった
「C. あまり良くなかった」を選択された方(理由:)

問17. この報告会全体で感じたことや意見等ご自由にご記入下さい。

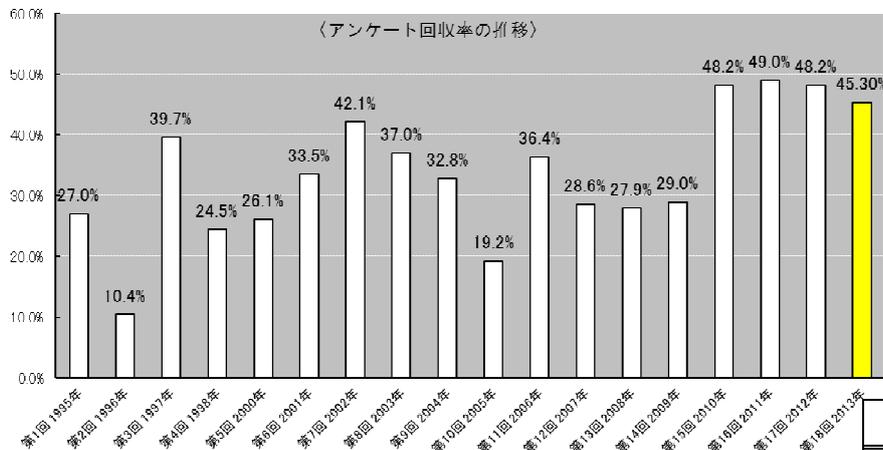
ご協力ありがとうございました。この用紙はロビーに設置してありますアンケート回収箱に投函願います。
なお、後日回答のご協力を頂ける方は、以下のFAX番号に送信して下さい。
FAX: 025-231-1283

「平成25年度 建設技術報告会」実行委員会

(裏面)

2) 配布・回収

アンケートは受付時に聴講者に配布し、第1会場及び第2会場前ロビー(ホワイトエ)に設置した回収箱により回収を行った。なお、アンケート回収率は以下のとおりである。

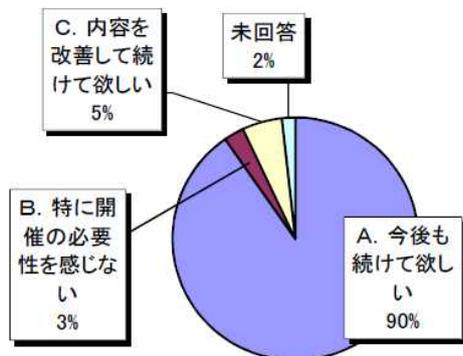


	官公庁	民間	計
配布数	126	373	499
回答数	41	185	226
回収率	33%	50%	45.3%

3) アンケート結果概要

○今後の報告会の開催について

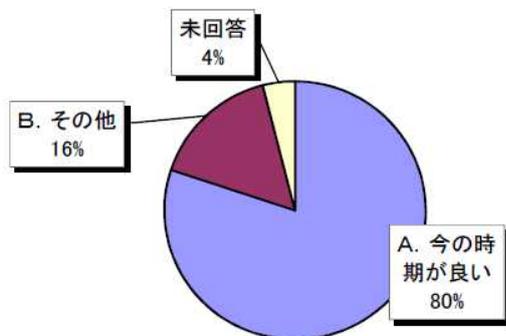
・約9割が、「今後も継続して欲しい」と回答



A. 今後も続けて欲しい	206
B. 特に開催の必要性を感じない	6
C. 内容を改善して続けて欲しい	12
未回答	4
	228

○報告会の開催時期について

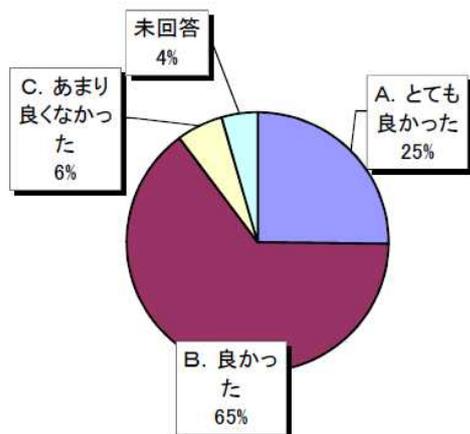
・8割が「今の時期が良い」と回答



A. 今の時期が良い	181
B. その他	36
未回答	9
	226

○報告会の報告形式や会場設営について

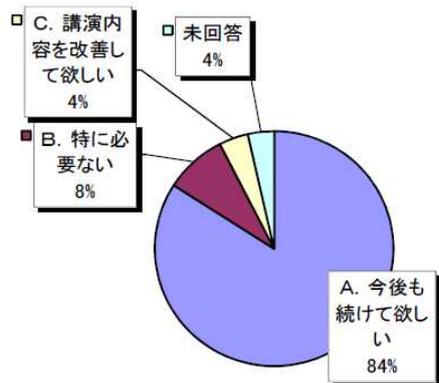
・9割が「とても良かった」「良かった」と回答



A. とても良かった	57
B. 良かった	146
C. あまり良くなかった	13
未回答	10
	226

○基調講演について

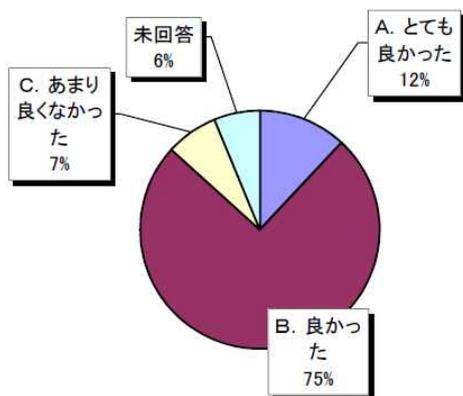
・約9割が「今後も続けて欲しい」と回答



A. 今後も続けて欲しい	190
B. 特に必要ない	19
C. 講演内容を改善して欲しい	9
未回答	8
	226

○パネル等展示コーナーについて

・9割が「とても良かった」「良かった」と回答



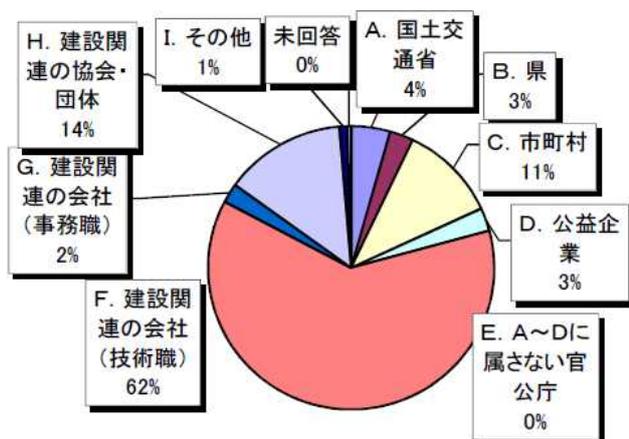
A. とても良かった	27
B. 良かった	169
C. あまり良くなかった	16
未回答	14
	226

○この報告会全体で感じたことや意見等の自由意見（今後の課題抜粋）

- ・発注者、コンサル会社の参加が少ない。
- ・発注者側の発表が少ない。
- ・発注者側から見た感じた新技術へのアプローチに関する報告が聞きたい。

4) 設問別集計結果

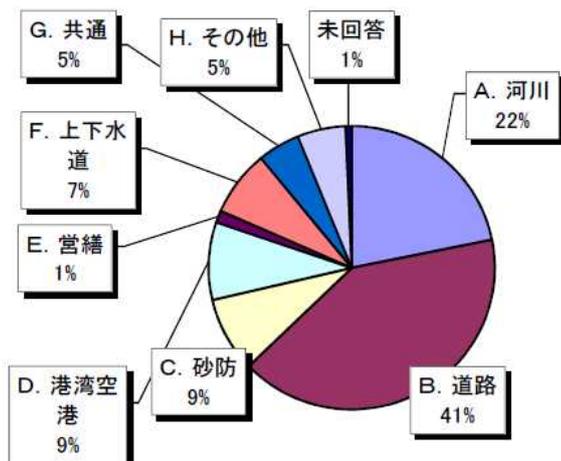
問1. 職業・職種をお聞かせ下さい。



A. 国土交通省	10
B. 県	6
C. 市町村	25
D. 公益企業	6
E. A～Dに属さない官公庁	0
F. 建設関連の会社 (技術職)	140
G. 建設関連の会社 (事務職)	5
H. 建設関連の協会・団体	31
I. その他	2
未回答	1
	226

未回答
・製造業(1)

問2. 主な仕事の分野をお聞かせ下さい。



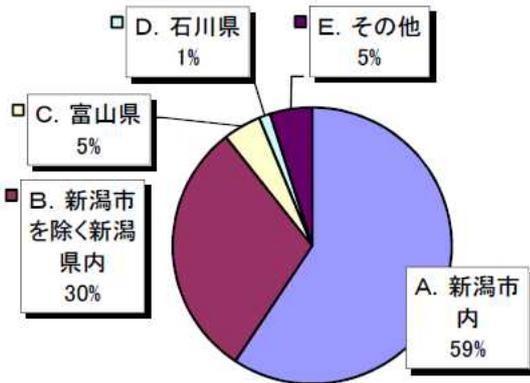
【複数回答有】

A. 河川	64
B. 道路	120
C. 砂防	25
D. 港湾空港	26
E. 営繕	4
F. 上下水道	22
G. 共通	14
H. その他	16
未回答	2
	293

共通
・土木全般(3)
・積算(1)

その他
・鉄道(3)
・公園(2)
・都市計画(1) ・農村整備(1)
・技術支援(1) ・施工管理(1)
・消融雪(1)
・その他(2)

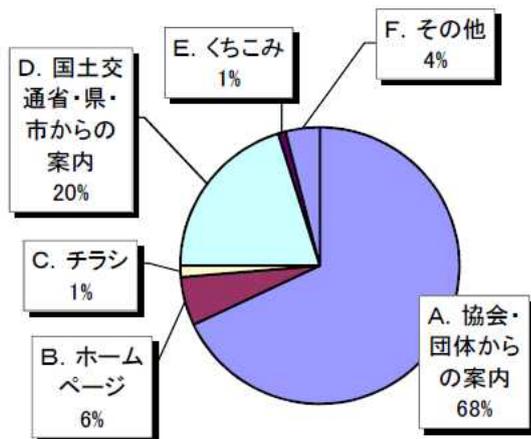
問3. どちらから来られましたか。



A. 新潟市内	134
B. 新潟市を除く新潟県内	68
C. 富山県	10
D. 石川県	3
E. その他	11
	226

- 新潟市を除く新潟県内
- ・長岡市(10) ・上越市(8)
 - ・新発田市(5) ・糸魚川市(2)
 - ・湯沢町(3) ・佐渡市(2)
 - ・加茂市(2) ・村上市(1)
 - ・三条市(1) ・柏崎市(1)
 - ・妙高市(1) ・胎内市(1)
 - ・津南町(1) ・中魚沼郡(1)
- その他
- ・埼玉県(3) ・長野県(2)
 - ・東京都(2) ・福島県(1)
 - ・茨城県(1) ・神奈川県(1)

問4. この報告会を何で知りましたか。

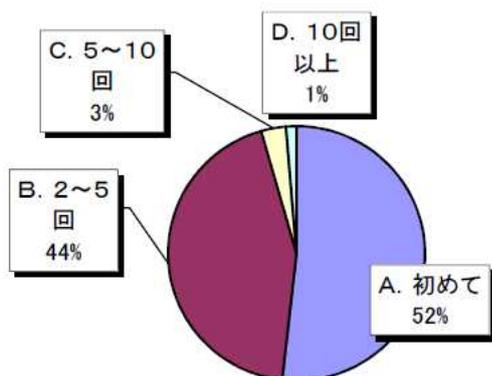


【複数回答有】

A. 協会・団体からの案内	155
B. ホームページ	13
C. チラシ	3
D. 国土交通省・県・市からの案内	46
E. くちこみ	2
F. その他	9
	228

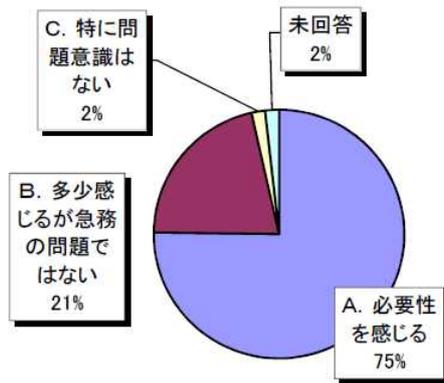
- その他
- ・会社(6)

問5. この報告会の参加回数をお聞かせ下さい。



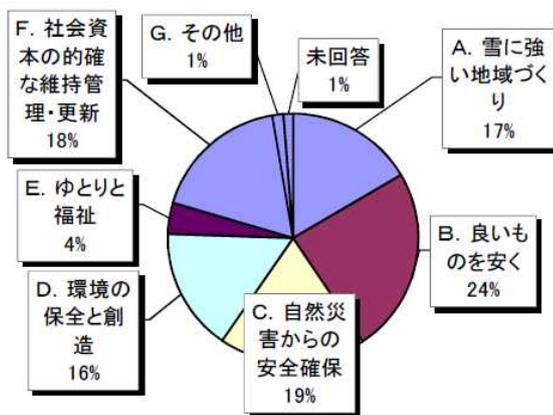
A. 初めて	117
B. 2~5回	99
C. 5~10回	7
D. 10回以上	3
	226

問6. 建設事業への新技術導入の必要性についてお聞かせ下さい。



A. 必要性を感じる	170
B. 多少感じるが急務の問題ではない	48
C. 特に問題意識はない	4
未回答	4
	226

問7. どの分野に必要性を感じますか。



【複数回答有】

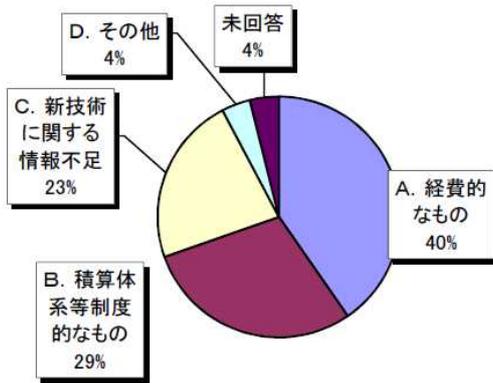
A. 雪に強い地域づくり	81
B. 良いものを安く	118
C. 自然災害からの安全確保	93
D. 環境の保全と創造	78
E. ゆとりと福祉	20
F. 社会資本の的確な維持管理・更新	87
G. その他	7
未回答	6
	490

その他

- ・作業員労力削減と安全確保
- ・どの分野でも必要であるが、高齢者が増える中、わかりやすい技術・使いやすい技術であることが必要に思う
- ・施工に制約のある現場での技術
- ・ソフト的な技術→政策など
- ・人材不足の対応(有能職人の高齢化)
- ・品質の向上
- ・異業種参入へのきっかけ

問8. 新技術導入の障害となっているものがあるとすれば、それは何かお聞かせ下さい。

【複数回答有】

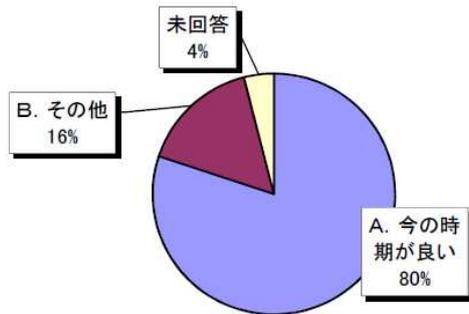


A. 経費的なもの	105
B. 積算体系等制度的なもの	76
C. 新技術に関する情報不足	59
D. その他	10
未回答	10
	260

その他

- ・実績が付き始めるまで2の足をふんで採用されない
- ・考える者と手を動かす者との関係(パートナーシップ)、仕組み(両者をつなげることの)
- ・実績が付き始めるまで2の足をふんで採用されない
- ・会計検査、災害系事業で国の関与がつよいもの
- ・採用度合い
- ・ニーズがはっきりしない。
- ・かけてよいコストがわからない。将来が見えない。
- ・絶対安全という状態でないと受付がやりにくい
- ・よくわかりません

問10. 報告会の開催時期についてお聞かせ下さい。

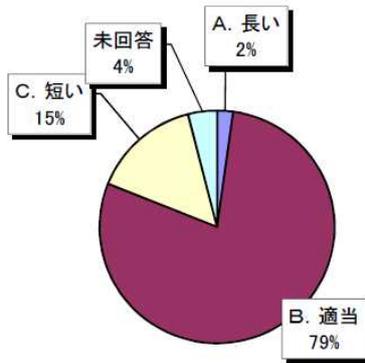


A. 今の時期が良い	181
B. その他	36
未回答	9
	226

その他

- ・5月(8)
- ・6月(6)
- ・4月(4)
- ・8月(2)
- ・11月(2)
- ・2月(2)
- ・6~8月(2)
- ・1月(1)
- ・7月(1)
- ・9月(1)
- ・春(1)
- ・4~5月(1)
- ・4~6月(1)
- ・5~6月(1)
- ・5~7月(1)
- ・6~7月(1)

問11. 報告技術1題あたりの報告時間についてお聞かせ下さい。

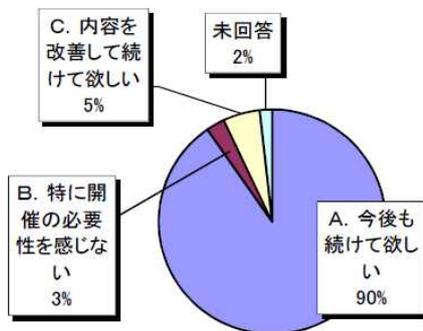


A. 長い	5
B. 適当	179
C. 短い	34
未回答	9
	227

意見

- ・構造検討を伴うものは長くてよいと思う

問12. この報告会の開催についてお聞かせ下さい。



A. 今後も続けて欲しい	206
B. 特に開催の必要性を感じない	6
C. 内容を改善して続けて欲しい	12
未回答	4
	228

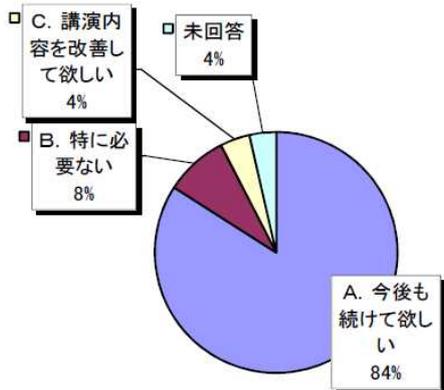
意見

- ・建設業界の開発努力が感じられよかった

問13. 問12で「B」または「C」と答えた方にお聞きします。
理由またはどのような内容を望まれていますか。

- ・今回の会場について、2会場に分けた報文発表だったが、会場がもっと近くだったらもっとよかった。(スノーホールAとBで隣同士など。)
- ・報告時間をもっとって報文集またはパワポ資料もほしい
- ・報告会場を分散化してほしい。テーブルがあるとよい。発表数が少ない。
- ・発注者の取り組みについて
- ・毎回同じ報告に感じる企業もあるが(開発・施工・追跡の3回)、選考でチェックすることは可能か?
- ・分野ごとにセッションを区分して欲しい
- ・参加者は仕方なしに来ていると思う(CPDSのために)
- ・題数が多く、分類により会場を小分けし半日程度がのぞましい。
- ・会場をもっと分野別に分けてもらいたい。
- ・もっと細かい分野毎に時間帯をまとめるとともに、各発表終了毎に出入り自由にしてほしい。
- ・基調講演は不要。質疑時間が不足。質問者の意図が不明。何を聞きたいかを明確に。(参加者の問題と進行係が悪い)

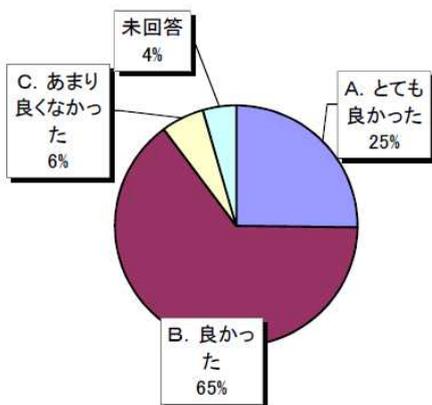
問14. 基調講演についてお聞かせ下さい。



A. 今後も続けて欲しい	190
B. 特に必要ない	19
C. 講演内容を改善して欲しい	9
未回答	8
	226

意見
・今回の演題は特に必要ない

問15. 発表形式や会場設営についてお聞かせ下さい。

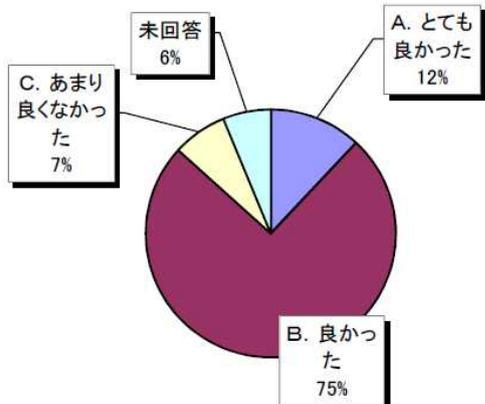


A. とても良かった	57
B. 良かった	146
C. あまり良くなかった	13
未回答	10
	226

Cの理由

- ・駐車場(無料)がない
- ・駐車場(有料)の問題、会場選定
- ・駐車場が遠い、高い。聴講時にテーブルが欲しい。会場が暑い。机があった方がよい
- ・テーブルがない
- ・机がないので記録しにくい
- ・もうすこしイスがあればよかったかなと
- ・空調を入れてください。
- ・スノーホールとなりのパネル展示コーナーの音が気になった。
- ・発表時間が短かすぎる。内容の省略があつて解りにくい。
- ・発表で舗装が同じ時間にあるのはどうか
- ・パワポの指し棒ライトが見えづらかった。
- ・移動時間

問16. 新技術を紹介するパネル等展示コーナーについてお聞かせ下さい。



A. とても良かった	27
B. 良かった	169
C. あまり良くなかった	16
未回答	14
	226

Cの理由

- ・せっかくなので、展示数をもっと増やすべき。
- ・古い技術もあった。
- ・ありきたり。
- ・説明者の説明が今ひとつ未熟
- ・内容(展示)が薄く感じられた
- ・面白味がない。
- ・くわしい内容がわからない
- ・もっと多くのパネル等を展示してほしい。技術以外にも土木に関する事項でもよい。もっと積極的にアピールした方がよい。
- ・発表内容がダブっていたのであまり意味がなくパツとしていなかった。発表とダブっている。
- ・活気なく必要性を感じない

問17. この報告会全体で感じたことや意見等ご自由にご記入下さい。

- ・質問をしやすい司会をお願いしたい。(素人…部門外でも聞いてみれる様に)
- ・カメラ撮影がひどいのでは…?
- ・短い時間で多くの技術の要点を聞くことができるのでありがたいです。
- ・非常に有意義であった。
- ・説明資料が少ない
- ・基調講演が非常にためになってよかった。
- ・新技術が普及するよう、実現場でもっと採用されるような仕組みづくりが大切である。何が障害になっているか、どうすればよいかの報告が欲しい。
- ・201の会場案内図があると親切
- ・発表者の持ち時間が短いのでは?
- ・いすが固いので長時間聴講がむずかしい。
- ・発注者側から見た感じた新技術へのアプローチや報告等があれば、もっと発展するのではないのでしょうか? 官公庁の方の発表が少ないように感じます。
- ・基調講演が期待はずれ。タイトルと内容が違う。話だけではなく、スライドも使うべき。
- ・①地元建設会社、コンサルタント会社の参加がほとんどいなかった。参加、発表を期待したい。
②個人の質問多過ぎ。〇〇市、〇〇さん…進行の役割?
- ・第一会場は時間にルーズだった。
- ・更なる報告内容・項目の充実を図って下さい。
- ・パネル展示コーナーでカタログだけでなくもう少し詳しい資料もおいて欲しい。
- ・1時間毎々休憩があれば良かった。
- ・全体のスケジュールを見直し、半日程度の時間制で構成を御願いたい。
技術報告件数を少なくし、年2回に分けて開催する等の検討を御願いたい。
- ・会場へのアクセスが良くない。
- ・今回は基調講演が非常に興味深かった。次回もこの様なものを期待。
- ・第Ⅲグループと第Ⅳグループの間に休憩がほしい。2時間続けるのは長い。
- ・深く掘り下げた報告が主で、関わりの少ない者には分かりにくい。
- ・基調講演が非常に良かった。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・新しい技術を知る上でたいへん良い機会だと思う。
- ・実行委員会の立場で発表内容に対して、最も優秀なものを決定しても良いのでは。
- ・安全で経費削減となる新設工法、既設維持管理となるものを、建設業界ではなく、小中高大学及び一般の方のヒントも活用できませんか。
- ・スライドの文字(青、緑)が見つらなかった。
- ・受付開始時刻前に受付対応してくださり良かった。
- ・1日今日のようないすではつかれます。
- ・技術報告の時間を1議題30分程度として頂きたい。
- ・コスト・施工性等を検討した上で、現場で使用してみたい技術が多くありました。
- ・10月はイベントが多く、このタイミングでの開催は…。もう少し業界全体で予定を調整して頂きたい。
- ・机がほしい。
- ・質問者の質問が長い。的確でない。(〇〇市職員)
- ・さまざまな専門分野の最先端の技術報告が聞けて、大変勉強になった。
- ・今回の基調講演は非常にわかりやすい内容で興味深いものでした。
- ・発表された技術が現場において適用され、実際に想定とどうなったかの発表も行ってはどうか。
品質に関するものは5~10年経過後に行ってはどうか。
- ・会場が暑い
- ・特別講演をもう一つくらい入れて欲しい。
- ・アンケート問9は発表番号のみの記入にしてほしい。
- ・基調講演が、建設に関わりがあってよかった。
昼食の店案内などあると知らない人には役立つ。
- ・〇〇市〇〇はおかしいです。何を聞きたいのかわかりませんでした。
- ・行政側の発表をもう少し増やしてほしい。
北陸技術事務所の発表が聞きたい。
- ・受付に時間が掛かったので、参加企業・団体・協会がスムーズに選択、チェックできるようにするとよい。
- ・問9の技術名を記号で答えられる形式にしてほしい。
- ・開催時期が良くない。この時期は現場が忙しいのもっと早い時期に御願いたい。
- ・会場及び時間等の余裕のある報告会である。
- ・全体的に少しおちついた雰囲気やってほしい。
- ・新技術の研究、開発、運用は建設業や官公庁にとって発展するには必要不可欠なので今後も続けて欲しい。